

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 勝山市立北郷小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒911-0054
勝山市北郷町東野13-25

E-mail kitagousyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website <http://www3.fukui-c.ed.jp/~kitagousyo/htdocs/>

児童生徒数 男子 51 名 女子 44 名 合計 95 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

1 はじめに

本校では、1・2年は生活の時間、3～6年生は総合的な学習の時間に地域の環境調査や保全活動を行っている。この活動の目的は「地域の良い場所や環境に自分たちが気づくこと、調べること」「故郷の魅力を発信すること」である。その活動として以下の実践を行った。

(1) バイカモ保全活動

学校近くの川に生息しているバイカモの実態を調査し、私たちがどのようなことをすれば、良い環境が守られ、美しいバイカモが咲く川を守っていけるのかを考えた。その考えを市の環境フォーラムで発表した。

①実態調査

5月にバイカモの生息している川で調査を行った。見た目はきれいでも、「ゴミや刈り取られた草がバイカモを覆っているところがあった。川底も空き缶や空き瓶でいっぱいになっていた。」などの状態であった。そこで、市の環境政策課にも協力していただき、清掃活動を行った。



その後、水質検査を行い、市内のほかの地域のバイカモ生息地の比較を行った。その結果、水質は悪くなく、水温も適度であった。しかし、夏頃になるとバイカモ以外のコカナダモなどが生えてきて流れを阻害しているところが多くなった。



②地域への発信

私たちだけでは、バイカモを守ることができないことが分かった。そこで、一定の区間のバイカモを守ることをめあてにするとともに、今の状態のバイカモを知り、地域全体の問題として考えてもらえるように発信した。

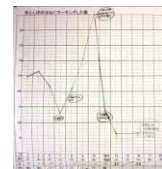
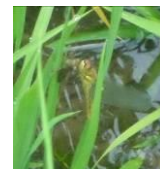


(2) 赤とんぼ調査

赤とんぼの飛ぶ地域はどのような環境なのだろう。そんな疑問で始めた赤とんぼ調査は4年目になる。分かってきたことは、田んぼで孵化しその後羽化して飛び立つことやアキアカネは高地に向かって暑い夏を過ごすことである。

①赤とんぼの孵化

赤とんぼは田んぼに水を張り、適温になると孵化する。そのときに箱処理剤などの農薬を使うと死んでしまう。つまり、農薬を使ってない田んぼには赤とんぼの幼虫がたくさんいて、それが羽化することになる。今年、600㎡で10000匹以上の羽化を観察した。



②赤とんぼの産卵観察

アキアカネは水の張った田んぼに多く産卵する。少しでも水が張ってあると産卵する。赤とんぼの中には田んぼの上を飛びながら卵を落として産卵する種類もある。秋のこの時期には数多くの赤トンボが飛来してきた。その中のメスのトンボを捕まえて、卵を産む様子を観察した。



1回にたくさんの卵を産む様子は児童にとって驚きであった。この卵が来年春には、多くの赤とんぼになるには、食に安心安全な米作りが大切であると分かった。







③地域に発信

環境フォーラムでバイカモの発表と同時に調査結果と実態を報告した。いつまでも赤とんぼが飛び交う地域を守り続けようと伝えた。



(3) 次代に残していきたい、和の住まい

福井らしさ、勝山らしさとはどのようなことか。子ども達にとって「一番身近な環境」である「家」をテーマに、将来自分が住みたい家、次の時代に残して行きたい家とはどのようなものかを考え、その中で守っていかなければならない環境や守っていく方法を考える力をつけてほしいと考え、学習に取り組んだ。建築士の方に講師として来校いただき、和の住まい、福井らしい勝山らしい「地住宅」の価値について考え、それを受け継いで住んでいくことの大切さやすばらしさを学んだ。

第1回	建築士の方から、住環境についてのプレゼンテーションをしていただいた。和の住宅や福井の住宅の特徴について学習した。	
第2回	北郷町にある、旧木下家の見学をした。和の住宅の良さ、昔の家に見られる工夫を探し、発表会をした。見学前に住宅の平面図から実物を想像し、現地へ行って自分のイメージとの違いを見た。また、実物の間取りが平面図ではどう表されているのかを見た。	
第3回	住宅展示場を見学し、現代の和のつくりを見た。昔の家と比較し、現代の家との共通点と相違点を探し、発表会をした。吹き抜け、広い玄関など、共通する工夫ではあるが姿かたちが大きく変わっているところに目をつけ、自分の家に取り入れたい工夫を考えた。	
第4回	建築士の方から、再び住環境についてのプレゼンテーションをしていただき、今回の学習の主旨を復習した。	
第5回	勝山らしい、北郷らしい家づくりを考え、自分が将来住みたい家考えた。間取りを大まかに平面図に表し、イメージを持った。(ゾーニング) また、地区ごとにグループをつくり、勝山らしい、北郷らしい町並みを考えた。	
第6回	ふすまや戸のかきかたや間取りの考え方を教えていただき、前時に考えたイメージ図を基に方眼紙を使って平面図を完成させた。	
第7回	完成した平面図を基に、立面図をつくった。屋根のかき方や合わせ方が難しく、苦勞をする児童が多かったが、よく考えて完成させることができた。	
第8回	自分が考えた家を発表した。また、地区ごとに町並みを発表した。 児童が考えたアイデアをもとに建築士さんがきちんと図面にしてくれたものを見せてもらった。	

2 今年度の成果と課題

各学年が発達段階に応じ、地域を見つめ、その魅力を発信してきた。自然豊かな故郷が好きだと答える児童が95%を超えてきたことが成果である。今後の課題は地域の力を借りて進めなければならないことが多くあることである。児童自らの課題として取り組めるよう支援していきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）